

SDGs 宣言と重点課題

2019年2月に策定した「群馬銀行グループ SDGs 宣言」では、当行グループの事業内容や営業エリアから、特に貢献が可能な7つの目標を中心に4つの重点課題を定め、事業活動を通じた社会・環境課題等への取組みを進めています。SDGs 宣言の考え方をもとに策定した中期経営計画における各施策に取組むとともに、課題解決に向けた新たな取組みを進めることで、持続可能な社会の実現と経済的価値の創造に貢献していきたいと考えています。



群馬銀行グループ SDGs 宣言 (GB Sustainability Policy 2030)

私たちは、地域社会の発展を常に考えた事業活動の推進を通じて、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献し、持続可能な社会の実現と経済的価値の創造に努めてまいります。

重点課題と取組方針	主な取組み
地域経済の持続的発展 地域の事業者の皆さまの成長支援や、地域活性化に向けた取組みを充実させるとともに、お客さまの多様なニーズに応じた金融サービスの提供により、地域経済の持続的な発展をサポートします。 次世代の担い手を育成するための多様な教育機会の提供・拡充に努めるとともに、地域の皆さまの金融リテラシー向上に向けて、金融経済教育の充実に取組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ● 起業支援の充実 ● 事業承継課題への網羅的な取組み ● 資産形成や資産承継等に資する金融サービスの提供 ● 高校や大学等での金融経済教育講義の実施 ● サステナビリティ・リンク・ローンの取扱い開始
地球環境の保全と創造 群馬銀行環境方針に基づき、環境保全や美しい環境の創造に取組むお客さまを支援するとともに、私たちの事業における環境負荷の低減に取組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ● 再生可能エネルギー向け融資や省エネローン等の取扱い ● 「ぐんぎんの森」保全活動 ● 群馬銀行環境財団を通じた環境保全活動支援 ● タブレットの活用やWEB口座によるペーパーレス化の推進 ● グリーンボンドの発行
多様な人材の活躍推進 女性や若年層、シニア層などすべての職員が生き生きと活躍できる職場づくりに向けて、役職員の多様性を高め、その活躍に向けた育成や柔軟な働き方の実現に取組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ● 「L-NEXT」（女性活躍推進チーム）など女性活躍推進に向けた取組み ● 柔軟な働き方の実現に向けた制度・環境整備
パートナーシップの推進 地方公共団体や法人、個人のお客さまなどとのパートナーシップにより、地域全体で持続可能な社会の実現に向けて取組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ● ぐんぎん SDGs 私募債による啓蒙と SDGs に資する活動支援 ● 地方公共団体等との連携による地域全体での SDGs 推進

環境への取組み

当行では、2009年5月に制定・公表した「群馬銀行環境方針・環境行動基準」に基づき、自ら環境負荷の低減に取組むとともに、設立した環境財団を通じて、環境保全活動の支援や環境保全教育にも取組み、事業活動を通じては環境保護に貢献できる金融商品の販売に努めるなど、環境保全に関する積極的な取組みを続けています。

《環境方針》

群馬銀行は、環境と産業が両立する真に豊かな地域社会の実現を目指し、ふるさとの自然環境を大切にしていきたいと考えています。環境保全に積極的に取組み、市民としての責任ある役割を果たしてまいります。

《環境行動基準》

1. 省資源、省エネルギー、リサイクル活動を推進し、環境への負荷の低減に努めます。
2. 金融商品・サービスの提供などを通じて、環境保全に取組むお客さまを支援します。
3. 役職員に対する環境教育を推進し、役職員の環境保全活動を支援します。
4. 地域における環境保全活動を支援します。

気候変動リスクへの取組み

群馬銀行は、「群馬銀行グループ SDGs 宣言」の重点課題の一つである「地球環境の保全と創造」に向けた取組みとして、2020年7月にTCFD※提言への賛同を表明しました。今後、気候変動が当行の経営にもたらす影響などに関して、情報開示の充実を進めてまいります。



ガバナンス

○当行は、TCFD 提言に沿った開示を進めるとともに、気候変動を含む環境への取組み状況について常務会で議論を行い、逐次、取締役会に報告しています。

戦略

- 脱炭素社会の実現に向けて、サステナブルファイナンス（持続可能な社会を実現するための金融）を拡充し、お客さまの環境保全に対する取組みをさまざまなかたちでサポートしてまいります。
- 気候変動リスクが当行の与信ポートフォリオに与える影響を把握するため、移行リスクと物理的リスクによる影響の分析を検討してまいります。

リスク管理

- 「環境・社会に配慮した投融資方針」を新設し、気候変動に影響を与えるセクターに対する投融資方針を定めています。（次頁参照）
- 気候変動リスクを当行の事業・財務に影響を及ぼす重要なリスクとして認識し、リスク管理体制の構築を検討してまいります。

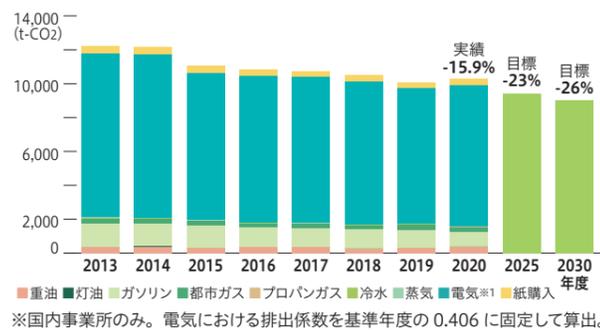
指標と目標

○温室効果ガス排出量の削減目標と紙（コピー用紙）の使用量における削減目標を設定しています。

温室効果ガス排出量削減目標			紙（コピー用紙）の使用量削減目標		
2025年度	2013年度比 23%以上削減	2020年度実績	2025年度	2013年度比 30%削減	2020年度実績
2030年度	2013年度比 26%以上削減	同 15.9%削減	2030年度	2013年度比 40%削減	同 30.2%削減

※排出係数の増減の影響を排除する為、電気の排出係数を2013年度の計数にて固定して算出。
 ※温室効果ガス排出量の算出範囲は、群馬銀行国内拠点におけるスコープ1、スコープ2、スコープ3の一部。

■ 温室効果ガス排出量 削減実績



■ 紙（コピー用紙）使用量 削減実績



■ 「環境・社会に配慮した投融資方針」の新設

当行は、2021年6月、サステナビリティを考慮した環境・社会課題解決に資する取組みとして、「環境・社会に配慮した投融資方針」を新設しました。環境や社会に大きな影響を与える可能性があるセクターへの投融資に関する取組方針を定め、取組方針に基づいた投融資を行うとともに環境や社会課題解決に向けたお客さまの取組みを積極的に支援することで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

環境・社会に配慮した投融資方針

群馬銀行は、事業活動を通じて持続可能な社会の実現を目指すため、環境及び社会課題解決に向けたお客さまの取組みを積極的に支援してまいります。

一方、環境への負荷や人権問題など社会への影響の大きい事業等に対する投融資に関しては、以下のとおり慎重に判断し、環境や社会への負の影響を低減・回避するよう努めます。

1. 石炭火力発電事業

新設の石炭火力発電所を資金使途とする投融資は原則として行いません。但し、石炭火力に頼らざるを得ない当該国・地域の電力・資源事情を踏まえ、例外的に取組みを検討する場合には、OECD 公的輸出信用アレンジメント等の国際ガイドラインや発電効率性能、環境への影響等を勘案したうえで、慎重に検討を行います。

2. 兵器等製造

戦争等に使用される、殺戮・破壊を目的としたクラスター弾などの非人道的な兵器を製造している企業への投融資は行いません。

3. パーム油農園開発事業

環境保全や人権保護の観点から、パーム油農園開発事業への投融資については、国際認証 (RSPO※1) の取得状況や環境への配慮や人権侵害の有無など、地域社会とのトラブル発生状況に十分注意のうえ、投融資判断を行います。

4. 森林伐採事業

森林伐採事業向け投融資を検討する際には、国際認証 (FSC※2、PEFC※3) の取得状況や環境への配慮など、地域社会とのトラブル発生状況に十分注意のうえ、投融資判断を行います。

※1 Roundtable on Sustainable Palm Oil (持続可能なパーム油のための円卓会議)

パーム油に関連する7セクター (パーム油生産業、搾油・貿易業、消費者製品製造業、小売業、銀行・投資会社、環境 NGO、社会・開発系 NGO) で運営する非営利組織。「原則と基準」に基づき農園やサプライチェーンを認証。

※2 Forest Stewardship Council (森林管理協議会)

「適切な森林管理」を認証する国際的な組織。

※3 Programme for the Endorsement of Forest Certification (森林認証プログラム)

持続可能な森林管理のために策定された国際基準 (政府間プロセス基準) に則って林業が実施されていることを第三者認証する「森林管理認証」。

■ サステナビリティ・リンク・ローンの取扱開始

当行はお取引先のサステナビリティ経営をサポートし、企業価値向上および持続可能な社会の実現を目指すため、2021年6月より「サステナビリティ・リンク・ローン」の取扱いを開始しました。

本商品は2019年3月にローン・マーケット・アソシエーションが策定した「サステナビリティ・リンク・ローン原則」に準拠した融資手法で、野心的かつ有意義な挑戦目標を設定し、お取引先のSDGsやESGの取組状況と融資条件が連動するものです。また、第三者評価機関がサステナビリティ・リンク・ローン原則への適合性やサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲットの妥当性等をレビューします。

■ グリーンボンドの発行および「群馬銀行グループ グリーン/ソーシャル/サステナビリティボンドフレームワーク」の策定

当行は、2019年11月、SDGs達成への取組みとして、再生可能エネルギー、エネルギー効率およびクリーンな輸送などのグリーンプロジェクトを資金使途とするグリーンボンドフレームワークを策定し、他の地方銀行に先駆けてグリーンボンドを発行しました (発行額100億円)。新規実行で充当は完了しております (2021年3月末現在)。

また、2021年5月に「群馬銀行グループ グリーン/ソーシャル/サステナビリティボンドフレームワーク」を策定しました。本フレームワークでは、グリーンボンドフレームワークにおけるグリーンプロジェクトに加え、社会課題に寄与するソーシャルプロジェクトを資金使途に追加しています。

グリーンボンド 充当状況 (2021年3月末現在)

項目	金額 (百万円)
グリーンボンド手取金	9,950
充当済金額	9,950
再生可能エネルギー	9,900
太陽光発電事業	9,566
水力発電事業	334
エネルギー効率	23
クリーンな輸送	27
未充当残高	0

群馬銀行グループ

グリーン/ソーシャル/サステナビリティボンドフレームワーク

グリーンプロジェクト

再生可能エネルギー
エネルギー効率
クリーンな輸送
グリーンビルディング



ソーシャルプロジェクト

雇用の維持・創出
災害からの復興・復旧支援
地域経済の再生・持続支援
医療、福祉サービス



※本フレームワークは、第三者評価機関である株式会社格付投資情報センター (R&I) からセカンダリー・オピニオンを取得しており、国際資本市場協会 (ICMA) が公表する「グリーンボンド原則 2018」「ソーシャルボンド原則 2020」「サステナビリティボンドガイドライン 2018」の基準に適合するものと認められております。

■ 尾瀬保護財団への寄付

当行と委託会社が受領する信託報酬の一部を尾瀬の環境保全活動を行う尾瀬保護財団に寄付する自然環境保護ファンド「尾瀬紀行」を取扱っています。また、株主優待「寄付コース」による同財団への寄付も取扱っています。

《2020年度実績》 ●「尾瀬紀行」による寄付…………… 880,256円 (累計: 15,673,300円)

●株主優待「寄付コース」による寄付…………… 218,500円 (累計: 395,000円)

■ 「ぐんぎんの森」整備活動

環境保全活動の一環として、群馬県と締結した「県有林整備パートナー事業実施協定」により指定された森林を「ぐんぎんの森」と命名し、その整備・保全活動に取り組んでいます。

新入行員研修には森林整備体験を組み込み、森林の整備・保護に関する行員教育を実施しています。(2020年、2021年は新型コロナウイルス感染症の影響により未実施)



■ 群馬銀行環境財団の活動

快適で健全な環境の整備向上を目指して設立した公益財団法人群馬銀行環境財団では、環境保全および環境の調査・研究に対する啓発・助成活動に取り組んでいます。

啓発活動として、小学生を対象に地球温暖化などの環境問題について体験学習を行う「エコ・キッズキャンプ in 赤城山」と中学生を対象に渡良瀬川の源流や旧足尾銅山を訪ね、環境学習、植樹体験などを通じ自然環境を守る大切さを学習する「環境探検隊」を実施しています。(2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により未実施)

助成活動として、2020年12月、群馬県内の小・中学校や高等学校の中から環境改善や保全について実践的で優れた活動を行った10校を「群馬銀行環境財団教育賞」として発表しました。また、2021年3月には、自然環境の保全活動や調査研究に優れた業績をあげた7団体を「群馬銀行環境財団賞」として表彰しました。